スイスの要素を含む国際的な遺産

Dr Alexander Ressos, TEP
Attorney-at-Law (Switzerland and Germany),
Solicitor (England & Wales and Hong Kong)
Of Counsel, KGP Legal LLC
alexander.ressos@kgplegal.com.sg
www.ressos.com.sg

どの法が準拠法となるか

シンガポールは、相続についてコモンロー上の準拠法選択規則を適用します。動産の相続は、故人の死亡時のドミサイル（domicile）の法によって規律されます。不動産の相続は所在地法（lex situs）によって規律されます。[1] デジタルアセットは動産です。その所在地は、取り扱いにシンガポールの検認状等が必要かどうかを判断する目的においては、*Cheong Jun Yoong*判決の準則に従います。すなわち、鍵を支配する者が居住する場所に所在するとされます。[2] スイスは国際私法（PILA）第86条以下を適用します。最後のドミサイルがスイスにあった者の遺産については、スイスの裁判所および当局が管轄権を有し、スイス法を適用します。ただし、外国籍の者には本国法を選択する限定的な余地があります。[3] スイス法は遺留分制度を定めています。2023年1月1日に施行された改正以降、直系卑属は法定相続分の2分の1、生存配偶者も法定相続分の2分の1について遺留分を

© 2026 Dr Alexander Ressos. General information only, not legal, tax or investment advice. No client relationship is created. All Singapore law advice is provided by a duly licensed and regulated firm of Singapore advocates and solicitors only on the basis of an express written letter of engagement. More information at SingaporeIQ.com and ressos.com.sg.

有し、父母はもはや保護されません。[4] シンガポールには、相続（家族扶養）法（Inheritance (Family Provision) Act 1966）に基づく限定的な扶養請求を除き、遺留分制度はありません。[5]

実務で生じる組み合わせは次のとおりです。ツークにドミサイルを有し、ツークでトークンをセルフカストディで保有し、シンガポールの取引所にも口座を持つ創業者が死亡したとします。スイスの観点からは、相続全体がスイス法によって規律されます。シンガポール法も、ドミサイルの準則を適用して、動産の相続をスイス法に送致します。したがって、民法第471条に基づく遺留分権利者の権利は、トークンの所在にかかわらずトークンに及びます。シンガポールにドミサイルを有し、スイスのカストディアンを利用する保有者の場合は逆になります。相続はシンガポール法によって規律され、遺留分制度はありません。スイスのカストディアンは、スイス法上受け入れられる書類の提出があればトークンを引き渡します。

検認状等とその承認

実務上の障害は書類にあります。シンガポールの取引所やカストディアンは、シンガポールの検認状または遺産管理状と引き換えでなければ、死亡した顧客の資産を引き渡しません。シンガポールは検認・遺産管理法第47条に基づき英連邦諸国の検認状等を再封印（reseal）しますが、スイスは英連邦の法域ではなく、スイスの相続証明書（Erbbescheinigung）は再封印できません。[6] そのため、スイスの相続人または遺言執行者は、シンガポールで新たに検認状等を申請しなければなりません。外国にドミサイルを有する故人の場合、これはシンガポール所在の資産に限定した、遺言がある場合はそれを添付した遺産管理状となります。申請には、外国法と申請人の権利についての証拠が必要であり、通常はスイスの弁護士の宣誓供述書によって提出します。手続には数か月を要します。その間、取引所の口座は凍結され、価格変動の大きい資産にとっては、それ自体が損失となります。

© 2026 Dr Alexander Ressos. General information only, not legal, tax or investment advice. No client relationship is created. All Singapore law advice is provided by a duly licensed and regulated firm of Singapore advocates and solicitors only on the basis of an express written letter of engagement. More information at SingaporeIQ.com and ressos.com.sg.

逆方向では、シンガポールにドミサイルを有する故人の資産を引き渡すスイスのカストディアンは、通常、アポスティーユと認証翻訳を付したシンガポールの検認状等を受け入れます。検認状等は国際私法第96条に基づいて承認されます。同条は、故人の最後のドミサイルがあった国で作成された相続に関する外国の裁判および文書の承認を定めています。[7] この点に関するスイスの実務は、シンガポールよりも形式にこだわりません。私の経験では、スイスのカストディアンの方が交渉相手として容易です。

論点	シンガポール	スイス
トークンの相続の準拠法	死亡時のドミサイルの法（コモンロー）	スイスにドミサイルを有する故人にはスイス法（国際私法第90条）。外国人は本国法の選択が可能
遺留分	なし（扶養請求のみ）	直系卑属と配偶者は、それぞれ法定相続分の2分の1について保護（民法第471条）
遺言の方式上の有効性	書面、署名、2名の証人（遺言法第6条）。電子遺言は不可	自筆証書遺言、公正証書遺言または口頭遺言（民法第498条以下）。電子遺言は不可
取引所口座へのアクセスに必要な書類	シンガポールの検認状等。外国の検認状等は英連邦の場合にのみ再封印	相続証明書（Erbbescheinigung）または承認された外国の検認状等（国際私法第96条）
相続税	2008年2月15日以降なし	州（カントン）税。ツーク州とチューリッヒ州では配偶者と直系卑属は非課税
相続上のトークンの所在地	鍵保有者の居住地（*Cheong Jun Yoong*）	未確定。実務ではカストディアンの所在地または故人のドミサイルを基準とする

© 2026 Dr Alexander Ressos. General information only, not legal, tax or investment advice. No client relationship is created. All Singapore law advice is provided by a duly licensed and regulated firm of Singapore advocates and solicitors only on the basis of an express written letter of engagement. More information at SingaporeIQ.com and ressos.com.sg.

2拠点にまたがる遺産の計画

両方の地に資産と家族を持つ保有者のための計画上の解決策は、4つの要素からなります。第1は、明確なドミサイルです。ドミサイルが準拠法と法廷地を決めるからです。ツークとシンガポールを行き来して暮らす創業者の場合、両方の法制度がその遺産を自らのものとして扱うことがあり得ます。第2は、各法域での遺言です。それぞれの遺言は当該法域にある資産に限定し、他方の遺言を踏まえて作成し、共通の遺言執行者または相互に調整された遺言執行者を置きます。第3は、カストディです。各地でライセンスを受けたカストディアンに預けたトークンは現地の書類で引き渡しを受けられますが、セルフカストディのトークンは、検認状等をどこで取得するかにかかわらず、遺言執行者が鍵を保有するか組み立てる必要があります。第4は、遺留分の点検です。スイスにドミサイルを有する保有者は、シンガポールの遺言やシンガポールの信託によって子の相続権を奪うことはできません。スイスの相続人は、民法第522条以下の減殺に関する規定に基づき、信託財産に対して請求できます。スイスがハーグ信託条約に基づいて信託を承認していることは、これらの規定を排除しません。[8] 第P部第VIII章では、これらの要素から導かれる相続計画のための10項目のプロトコルを示しています。

国際的な視点

次の3点をあらかじめ決めておけば、ツークとシンガポールのデジタルアセットを一つの一貫した遺産計画のもとで保有できます。どこにドミサイルを置くか、鍵のどの構成要素を誰が保有するか、そしてどのカストディアンがどの書類と引き換えに資産を引き渡すか、です。これらの問題を未解決のまま残した創業者は、シンガポールでは凍結された取引所口座を、ツークでは誰も開けられないハードウェアウォレットを家族に残すことになります。その後には、スイスの遺留分権利者とシンガポールの受益者との間で、その時点では当初の価値のごく一部しか残っていないかもしれな

© 2026 Dr Alexander Ressos. General information only, not legal, tax or investment advice. No client relationship is created. All Singapore law advice is provided by a duly licensed and regulated firm of Singapore advocates and solicitors only on the basis of an express written letter of engagement. More information at SingaporeIQ.com and ressos.com.sg.

い資産をめぐる紛争が続きます。計画の各要素は、いずれの地においても有能なアドバイザーにとっては日常的な業務です。難しいのは、必要になる前にそれを実行することだけです。

注

1. 動産および不動産の相続に関するコモンロー上の準則はシンガポールで適用されています。例として*Re Estate of Chong Siew Kum* [2005] SGHC 41参照。 ↩
2. *Cheong Jun Yoong v Three Arrows Capital Ltd and others* [2024] SGHC 21 at [59]–[63]。 ↩
3. 国際私法（PILA、SR 291）第86条、第87条および第90条–第91条。 ↩
4. 民法（CC、SR 210）第471条（2023年1月1日施行の改正後のもの）。 ↩
5. Inheritance (Family Provision) Act 1966, s 3。 ↩
6. Probate and Administration Act 1934, s 47（英連邦の検認状等の再封印）。 ↩
7. 国際私法（PILA、SR 291）第96条。 ↩
8. 民法第522条–第533条（遺留分侵害に対する減殺訴権）。ハーグ信託条約第15条は、相続に関する法廷地の強行規定を留保しています。 ↩

Disclaimer

This article is provided for general information only. It is based on publicly available sources as at its date of publication. These sources have not been independently verified against licences, regulatory registers or the records of the entities concerned. It is not legal, tax, financial or investment advice. Nor is it a recommendation to invest in, transact with or use the services of any entity mentioned.

© 2026 Dr Alexander Ressos. General information only, not legal, tax or investment advice. No client relationship is created. All Singapore law advice is provided by a duly licensed and regulated firm of Singapore advocates and solicitors only on the basis of an express written letter of engagement. More information at SingaporeIQ.com and ressos.com.sg.

Law and regulation change frequently, so the content may be incomplete or outdated. To the fullest extent permitted by law, Dr Alexander Ressos and the publisher of SingaporeIQ exclude all liability for loss or damage arising from the use of or reliance on this article. Readers should obtain advice on their specific circumstances before acting or refraining from action.

Names and trademarks of the entities discussed belong to their owners and are used for identification only. Their mention implies no endorsement, affiliation or allegation of wrongdoing. All Singapore law advice is provided by a duly licensed and regulated firm of Singapore advocates and solicitors only on the basis of an express written letter of engagement. Corrections and updates: contact@ressos.com.

© 2026 Dr Alexander Ressos. This article may be quoted with attribution to SingaporeIQ (SingaporeIQ.com). Reproduction in full and any commercial use require prior written consent. The Legal Terms at https://singaporeiq.com/legal-terms apply.

Author contact: Dr Alexander Ressos, TEP · contact@ressos.com

© 2026 Dr Alexander Ressos. General information only, not legal, tax or investment advice. No client relationship is created. All Singapore law advice is provided by a duly licensed and regulated firm of Singapore advocates and solicitors only on the basis of an express written letter of engagement. More information at SingaporeIQ.com and ressos.com.sg.